

(様式1)

令和6年度 自己評価表

愛媛県立新居浜工業高等学校

学校番号 (7)

教育方針	教育基本法及び学校教育法にのっとり、我が国の未来を切り拓く、豊かな人間性と創造性を身に付けた実践的技術者として、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献し得る人物を育成する。	重点目標	自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる生徒の育成 ーものづくりを通した人づくり、夢づくり、 ーそして、魅力ある学校づくりー ○ 人としての在り方生き方を身に付けた心豊かな生徒の育成 ○ 確かな学力の定着と実践的キャリア教育の推進による進路の実現 ○ 自己有用感を高め、充実感や達成感を味わえる活動の推進 ○ 地域を愛する優しい心と貢献する意欲を持った人材の育成
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	基礎学力の向上	<p>基礎・基本の定着を重視した分かる授業実践を進める。 <u>学力の基礎となる「国語・数学・英語」については、少人数指導やティーム・ティーチングを取り入れることで、学習活動の充実を図る。</u> 家庭学習時間の確保のため、<u>教科間で連携し適切・適当な課題を設定することで学習習慣を確立させる。</u> 技能審査の成果の単位認定を促進することで、<u>主体的に学びに向かう態度を醸成する。</u></p>	B	<p>2学期に実施した調査において、「授業は分かりやすいか」という質問に対して、96.2%の生徒が「はい」と回答している。昨年度は96.9%だったため、数値は若干下がっている。 考査期間中の学習時間は目標の2時間を約30分下回っており、十分とは言えない。授業内容の定着や各種検定試験に向けた学習を実施するには、家庭での学習習慣の定着が必要不可欠であり、家庭学習時間の増加は継続的課題である。</p>	<p>分かる授業の実践はこれまでと同様に継続して進められているものの、新居浜工業高校の教員としては100%を目指すべきである。 次年度も2回の授業評価アンケートを実施し、目標の達成状況を確認する。また、基礎学力を向上させるためには家庭での学習習慣の定着が重要であるため、引き続き適切な課題の設定を呼び掛ける。</p>
	教科指導の充実	<p><u>主体的・対話的で深い学びの在り方、ICT機器の積極的な活用</u>の方法を研究し、<u>実践と改善を行う。</u> <u>観点別学習の評価方法について更に研究・改善し、指導と評価の一体化を踏まえた学習指導に活用する。</u> 各教科で実施される研究授業や、年間2回の相互授業参観週間における積極的な参観を呼び掛け、<u>教科横断的に授業を参観することで指導方法の研修に努める。</u> 総合教育センター研修や学校訪問研修等の積極的な参加により、<u>教科指導力の向上を図る。</u></p>	B	<p>2学期に実施した調査において、教員の視聴覚機器の活用に対し、「工夫をしているか」という問いに、昨年度とほぼ変わらず、96.9%の生徒が「はい」と回答しており、電子黒板や1人1台端末を活用した授業が定着してきたと考える。 観点別評価については、「C」がついた生徒を教科担当・担任で支援できる体制を継続させることができた一方で、A・B・Cの評価の混在が見られた。今後も、より良い指導と評価の在り方を継続して研究していくことが課題である。 学校訪問研修や相互参観授業、公開授業の機会を用い、全教員が互いに刺激し合い、教科指導力の向上に努めている。</p>	<p>生徒の個人端末の活用方法については、引き続き他校の実践事例を参考に実践していきたい。 観点別評価の在り方についても、本校生徒に対して適切なものとなるよう、他校の実践事例や校内での各教科での実践事例の情報交換を行うなど、より良いものとなるように研修の場を設けたい。 各教員の授業力向上のため、各種研修や相互授業参観、公開授業については継続的に実施する予定である。</p>

学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	<p>P T A活動や学校行事への参加者の増大を図るとともに、保護者や地域住民からの提言を参考に改善に努める。</p>	A	<p>P T A活動が熱心に行われた。保護者の方の提言を参考にし、レクバレーや企業見学、運動会や文化祭バザーにおいて、充実した活動を実施することができた。</p>	<p>S N Sを活用したP T A連絡網の開設によって連絡がスムーズになった。効果的な利用方法を更に工夫して、活動の在り方を検討していく。</p>
		<p>学校行事や部活動、各学科の授業の様子などを、学校ホームページや「新居浜工業高校公式チャンネル」などを活用して配信し、保護者や地域へ向けて、学校の魅力をアピールしていく。 保護者向けの連絡等が携帯メール等を利用して確実に伝わるように努め、学校と家庭との連携がより強くなるように努める。</p>	A	<p>学校ホームページでは、記事が随時更新されており、学校行事を中心に、生徒や学校の様子を伝える努力がなされている。 「新居浜工業高校公式チャンネル」「公式X」にて、学校での活動を伝えしたが、更新回数を更に増やす努力が必要であった。 また、保護者へのマチコミメールによる文書の配付案内は好評であり、登録率も97%を超えている。</p>	<p>ホームページや公式 YouTube チャンネル等の更新を図りたい。また、生徒の様々な活動の様子を見ていただき、本校の魅力をより知っていただくように努める。 メールの効果的な活用により、P T A便りをはじめ多くの連絡事項・学校情報を適切に発信し、メール登録率100%を目指したい。</p>
工業教育	実践的技術者としての知識・技術の充実	<p>ジュニアマイスターの取得対象者数をゴールド5人以上シルバー15人以上にし、卒業時の資格・検定取得数を一人当たり平均5個以上にする。 ゴールド (A: 5人以上、B: 4人以上、C: 3人以上、D: 2人以上、E: 2人未満) シルバー (A: 10人以上、B: 8人以上、C: 6人以上、D: 4人以上、E: 4人未満) 卒業時 (A: 5個以上、B: 4個以上、C: 3個以上、D: 2個以上、E: 2個未満)</p>	C	<p>ジュニアマイスターの取得対象者数は、ゴールド2人(評価D)、シルバー4人(評価D)となっている。卒業時の資格・検定取得数は、1人当たり3.7個(評価C)となった。 資格・検定取得数を評価すると、前年度よりジュニアマイスター取得対象者数・資格検定取得数ともに微減している現状であり、今後の資格取得に関する指導を再考しなければならない状況にある。</p>	<p>難易度の高い資格検定に勇気を持ってチャレンジできる環境を作り、ジュニアマイスター顕彰制度特別表彰に該当する者を輩出できるように改善していきたい。 1人当たりの資格・検定取得数は、3.7個と昨年度の4.4個を下回った。 学科によって1人当たりの資格・検定取得数にばらつき(4.6~2.5個)があるため、各科で見直しをお願いしたい。</p>

工業教育	ものづくり教育の推進	ものづくりコンテスト等各種競技大会で、全国大会出場3部門以上を目指す。 取組内容の紹介・発表会等を積極的に開催し、その成果を校外に広く知らしめる啓発活動を行う。	A	N I Tプロダクトデザインコンテスト3Dモデリング部門において特別賞となり、3年連続で賞を受賞した。 マイコンカーラーでは、Advanced Class で四国大会団体優勝、個人競技1～4位独占、Basic Class で四国大会準優勝、全国大会においてもAdvanced Class で個人競技3位入賞、ベスト8入賞2名など、大きな成果を収めた。	来年度も生徒が輝きを持って活躍できる各種競技会やコンテストの紹介・参加に向けた啓発を行うとともに、ものづくり人材の素地となる生徒の技術・技能の向上に努め、ものづくりに興味・関心が持てるよう努めたい。
	地域貢献を目指して	一日体験入学、ものづくり教室、出前授業、製作物の寄贈・メンテナンス等の活動を校外において、 <u>地域と連携・協働し地域貢献に努める。</u>	A	V Y S部は、新居浜市内を中心に車いす41台を寄贈した。情報電子部を主として「東予ものづくり祭」をはじめ、登り道商店街の活性化を目的とした「小学生ものづくり体験教室」等の県内で開かれた様々な行事に参加し、生徒が持つ技術力を活かした地域貢献に努めた。	来年度も地域産業・地域資源に着目し、生徒の工業力を生かした地域に密着・連携・協働した取組を通して、地域に愛される工業高校として地域貢献・発展に寄与できる持続可能なものづくり活動を実践していく。そして、生徒の自己有用感と肯定感、そして心豊かな人間性を育み、地域産業を支えるものづくり人材の育成に努めたい。
ICT環境	ICT教育推進	「1人1台端末」を効果的に使う研究を行い、月平均4回以上を目標に学習活動(課題配付・回収等)で利用する。	B	各教科でE I L S (えひめICT学習支援システム)の教材作成のための研究が行われ、1人1台端末の利用に結び付けた。教材の作成に時間が掛かるため、学習活動への利用がまだ少ない教科も見られる。	出題によっては、解答入力の方法が難しいものがある。解答方法を工夫すれば、問題作成のしやすさにもつながるので、出題や解答形式の研究を併せて行っていく。
	SNS情報発信	YouTubeの動画再生数は月平均2000以上、動画アップロード数は年間40動画以上を目指す。 再生回数 (A:2500以上、B:2000以上、C:1500以上、D:1000以上、E:1000未満)	D	今年度総再生数16,500回となっており、平均1,333回となっている。また、動画アップロード数が伸びていないため、再生数につながっていない。	コンテンツの真新しさがないので、学校生活や教育活動の魅力発信となるコンテンツを拡充させて、再生数向上につなげる。
		動画制作 (A:40以上、B:30以上、C:20以上、D:10以上、E:10未満)	E	今年度の動画制作数が三つとなっている。	生徒目線での情報発信として、放送部による動画制作に依存しているのが現状である。各教科や部活動による活動状況等の動画制作の依頼を検討する。

ICT環境	校務分掌のデジタル化	アンケート調査の回収や連絡などの配付物のデジタル化を促進し、業務の軽減を図る。	A	各分掌において、各種調査やアンケートをWeb回答とすることで、印刷量が減っている。また、集計等の作業をスムーズに行えるようになり、時間短縮にもつながっている。	継続して配付物の減量化となるように、授業支援アプリなどを効果的に使い、フィードバックもできるような利活用を検討する。
特別活動	充実感ある学校行事の推進	運動会や新工祭、グループマッチなどの学校行事に、生徒を積極的に参加させ、達成感を味わせるとともに、生徒会役員の主体性を引き出しながら、生徒会活動の活性化を図る。	B	運動会や新工祭、グループマッチ等の学校行事は、生徒を中心に意欲的・積極的に活動でき、活気のある行事となった。生徒会役員も準備や運営に積極的に取り組み、スムーズな運営に貢献した。	生徒会活動の活性化を図り、学校行事のスムーズな運営を促すとともに、生徒に意欲的・積極的に活動させることによって、達成感・成就感を味わわせる。
	地域共生プロジェクト	交流体験（ボランティア活動・保育・介護体験など）に積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	B	災害ボランティア活動は、生徒が地域の方々とともに立川地区の清掃活動を行った結果、地域の方々からも高評価をいただいた。また、コロナの影響でしばらく実施していなかった運動会での聖マリア幼稚園児とのダンスも実施し、楽しく活動することができた。	地域との連携を密にし、更に連携を深め、自主的・意欲的に地域に貢献する活動に取り組みせ、豊かな人間性を育ませる。
	部活動の充実	各部とも目標を高く掲げ、その達成に向けて精神力・技術力の強化を図る。 3年間継続して活動できる体制を作り、部の活性化を図る。	B	運動部・文化部共にしっかりとした目標を掲げ、自主的・意欲的に活動し、運動部ではウエイトリフティング部・少林寺拳法、文化部では機械部・電子機械部・情報電子部が全国大会に出場するなど素晴らしい成果を上げることができた。	部活動加入率を向上させ、多くの生徒が3年間継続して活動できる体制を工夫し、しっかりとした目標を掲げ、自主的・意欲的な活動を促し、更なるレベルアップを目指す。
生徒指導	規範・防犯意識の育成	社会のルールを守り、健全な生活の確立を図る。 自転車置き場の整理整頓及び自転車の施錠を徹底させ、防犯意識の定着を図る。 登校時の交通指導を行い、ルール遵守の意識を高める。	B	規範意識や、マナーやモラルなどの意識が低い生徒が多く、数多くの指導を行った。また、公共物や他人の自転車を傷付けるなどの事案も多かった。 年度当初は交通マナーについての苦情の電話が多かったが、2学期以降は少なくなった。	粘り強く指導を継続するより他はない。事が起こった時には迅速に放送で呼び掛け、集会を開くなどして注意を促していく。 人を傷付けない、人を騙さない、人の物を盗らない、三つの基本的な内容を都度指導していく。

生徒指導	基本的習慣の確立	<p>身だしなみの重要性を認識させ、高校生らしい身だしなみをする習慣を定着させる。</p> <p>保護者と双方向の関係を確立するとともに、生徒との触れ合いを深め、遅刻・早退・欠席の防止に努める。</p>	B	<p>身だしなみの合格率については大幅な改善が見られ、ツーブロック許可などの校則改定につながった。遅刻については依然として多く、指導が非常に難しい。</p> <p>生徒課だよりを発行し、保護者にも生徒指導について理解してもらう試みが徐々に浸透している感がある。</p>	<p>身だしなみ指導については今後も詰めるべき内容があり、時代に適応したものに変わっていくとともに、安易に流されないようにもすべきである。</p> <p>今後も生徒課だよりを発行し、基本的生活習慣の確立に向け、保護者の協力も仰いでいきたい。</p>
教育相談	教育相談の充実	<p>生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒との相談活動を充実させる。</p>	C	<p>学期ごとの紙媒体に加えて、オンラインによる悩みのアンケートを通年実施し、来談数は増加している。学校生活への適応に困難さを感じる生徒の現状を把握し、校内外関係者と密に連携しているが、進路変更による途中退学者や不登校傾向の生徒との対話は十分にできていない。</p>	<p>アンケート機能をより充実させるとともに、生徒だけではなく保護者も気軽に相談できる環境づくりが大切である。また、学校生活全般に意欲を持っていない生徒に対する相談活動を、広い視野を持って実行していく。</p>
	特別支援教育の充実	<p>支援を必要とする生徒やその保護者との対話を行うことで、日頃の状況や行動を的確に把握し、支援活動に生かす。</p> <p>外部の専門員からの指導・助言を受け、校内体制を充実させる。また、研修の機会を生かし、特別支援教育への理解を深める。</p>	B	<p>新居浜市や他市の教育委員会発達支援課と連携し新入生に対する丁寧な引継ぎを行うことで、円滑な支援体制がスタートできるような体制が構築されている。また、保護者面談を通して支援活動を毎学期見直している。</p> <p>本年度の教職員研修は、外部講師を招くことができず、昨年同様映像による研修を行った。今年度は、国立特別支援教育総合研究所が配信する動画を視聴した。</p>	<p>特別な支援が必要な生徒に対して直接的な関わりを持つ指導者の現状や困り感を、アンケートを通して具体的に把握しつつ、より実効性のある指導体制を校内全体で構築していく。</p>
人権・同和教育	人権に配慮した個性の育成	<p>日頃の生徒との関わりの中で、生徒理解の観点に立ち、思いやりの心や自尊感情を育む。</p> <p>全ての教育活動の中に同和教育の視点を位置付け、日々の生活の中で様々な人権課題の解消に取り組むことのできる生徒を育てる。</p>	B	<p>本校生徒の日頃の生活態度から、自他を尊重する態度は育ちつつあると感じるが、まだ十分とは言えない。一方、人権委員をはじめとする生徒が高知県での現地研修会や新居浜市人権フェスタ等に参加し、相手を思いやる心や人権を尊重する心を育てるための機会を持つことができた。</p>	<p>全ての教育活動の場面において、人権・同和教育の観点に立った指導が重要であると教師が自覚して実践することで生徒の模範となり、受容的な態度で生徒の思いに耳を傾け、小さな変化にも気づけるような声掛けを実践していく。</p>
	いじめ、差別のないクラス	<p>互いの人格を尊重する意識を醸成し、いじめの兆候を見逃さず、早期解決に努める。</p>	B	<p>いじめや差別のないクラスにするために、ホームルーム活動や講演会などを通して啓発に努めたが、いじめを許さない雰囲気づくりや行動に十分結びついていないのが現状である。</p>	<p>学校生活の全ての場面で人権感覚を磨き、いじめや差別を許さない行動に結びつくように、更に啓発に努めていく。</p>

進路指導	就職指導の充実	<p>地域社会、保護者との緊密な連携を図り、生徒一人一人の適性に合った進路指導を推進し、生徒自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、就職内定率 100%を目指す。</p> <p>(A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)</p>	A	<p>ホームルーム活動と日々の教科指導による企業研究や地元企業への理解を深めるための職場見学への参加、面接指導を通して生徒一人一人の能力や適性を十分に把握し、それぞれの生徒に応じた進路指導を推進した。</p>	<p>生徒の希望や能力、適性に応じた企業とのマッチングのために、企業情報の提供やアドバイスが必要である。また、個々の適性に応じた進路指導を家庭の協力や理解を得ながら進めていきたい。</p>
	進学指導の充実	<p>進学補習や模擬試験等の実施及びオープンキャンパス、学校説明会への積極的な参加を促し、生徒自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、進学先決定 100%を目指す。</p> <p>(A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)</p>	A	<p>進学補習を行うことで基礎学力の向上に努めさせた。また、進学情報を提供し、オープンキャンパスや学校説明会への積極的な参加を促した。進学補習や本人の努力、科・担任、教科担任の先生方の御協力により、今年度も高知工科大学理工学群などに合格することができた。</p>	<p>入学試験に必要な情報の提供や進学補習の充実を促し、個々の適性に応じた進路指導を家庭の協力や理解を得ながら推進したい。</p>
学校安全	学校安全の充実	<p>委員会活動を中心に、校内の美化向上に努める。</p>	A	<p>春・秋に前庭池の水を全て抜き、池清掃を行った。正面玄関の顔であるため美しく保てるよう継続して務めた。学校周辺の河川の清掃活動にも取り組めた。</p>	<p>校内外の美化活動において、中心的役割を果たすような委員会活動を、更に充実させたい。</p>
		<p>防災避難訓練や消火器等の使用訓練を通して、危機に対応できるスキルを身に付けさせる。</p>	B	<p>地震・火災に対応する避難訓練と、予告なしの訓練を通じて、昨年に続き防災意識高揚に取り組めた。生徒の災害に対する危機意識も変化してきている。</p>	<p>自分の住む地域の災害に意識をして目を向け、災害に対する備えができるように意識付けをしていきたい。防災に対する取組が生徒から家庭、地域全体に広がるようになってもらいたい。</p>
学校保健	学校保健の充実	<p>健康診断の機会に、生徒に自らの健康について関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。 <u>また、感染症流行時には、休み時間の教室の換気や手洗い・うがい、マスクの着用など各自の感染予防策の徹底を促す。</u></p>	B	<p>健康診断後は異常の有無に関わらず全員に結果を通知し、自らの健康状態に目を向けられるようにした。病院受診等の事後措置が必要な生徒には個別に声掛けを行い、昨年度よりも事後措置率を上げることができた。 個人主体の感染症対策について、生徒が自分のこととして捉え、実践できるように、保健便りや掲示物などを通して、感染症予防の啓発を行った。</p>	<p>健康診断の結果等から判明した生徒の健康課題については、関係者と情報を共有し、授業の場等においても指導に生かしてもらえるように情報提供を行っていききたい。</p>
		<p>委員会活動を中心に、校内の衛生環境の整備や健康意識の向上に努める。</p>	C	<p>保健委員会の活動の中で、環境衛生検査や手洗い設備の点検等を行い、校内の環境衛生について確認することができた。</p>	<p>生徒自らが健康のための環境づくりをできるようにするために、保健委員会の活動内容や校内環境について積極的に情報発信を行っていききたい。</p>

学校行政事務	教育環境の整備充実	施設・設備の整備充実を図り、安心・安全な教育環境を整える。	B	空調設備の更新を行い、ガスエアコンを電気エアコンに変更した。また、トイレの洋式化修繕（2か所）を行うことで、普通教室がある教棟の階ごとに洋式トイレを設置することができた。	老朽化した施設及び備品設備について、予算状況に応じて早期に修繕及び更新したい。
	会計処理の適正な執行	会計手続について職員に周知し適正な会計処理を行うとともに、県費・私費共に計画的に予算執行を行う。	B	物価高騰に伴い、例年どおりの厳しい予算状況だが、教職員の消耗品の節約、節電等の協力により、限りある予算の中で適切に執行することができている。	来年度も厳しい予算状況が予想されることから、効率的な支出計画を立て早期に適正な予算執行を行いたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間適正化を進め、休憩時間を確保する。業務の効率化や平準化を図り、時間の有効活用 <u>に努める。</u>	C	外部からの電話の対応時間を制限したことや、テストの自動採点システムを導入したことで、業務の負担軽減につながった。また、長期休業中のテレワーク制度の活用も推進し、ワークライフバランスの向上につながった。	引き続き、ICTの活用を中心として、業務の効率化につながる取組を行いたい。また、テレワーク制度の活用も推進していきたい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	メンタルヘルス関係・福利厚生情報を電子掲示板で発信した。また、希望者を対象に校医による健康相談を行った。	引き続き相談事業を紹介するとともに、今年度から導入されたAIメンタルヘルスシステムの活用も積極的に推進していきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。